

# 稱讚 二〇六号

二〇二〇年二月一日発行

発行 浄土真宗本願寺派 稱讚 寺

〒二二一〇〇七五

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三二五二四二二〇二五

FAX 〇三二五二四二二〇二六

HP shousanji.com

今回の新型コロナウイルスにしても、武漢から政府専用機で帰国した方々が宿泊しているホテルのスタッフのお子さんが、学校で、いじめにあっているとの報告がありました。子どもたちが、自分の思いで、いじめをすることは考えにくく、おそらく、大人が間違った情報・考えを子どもに話していることが原因かもしれません。

確かに、罹らないように、予防することは大事なことではありますが、排他するような差別的な言動は慎みたいものであります。

浄土真宗では、「豆まき」のような習慣はありません。妙好人の浅原才市さんは自分の姿を絵師に描いてもらったところ、誰もがそっくりと言っていたのに、才市さんだけが似てないと言って、頭に角を加えてもらって、これが私の本当の姿だと言われ、これが私です。

私たちは、三毒（貪欲・瞋恚・愚痴）を代表

する煩惱を持っています。

その煩惱を「鬼」と喩える

ことも出来るでしょう。鬼

は私の外にいるのではなく、

私の中にいるのである

り、「鬼は外」と言うのは、

私の中にいる鬼を表面

に出す行為でもあり、それ

は差別の心をむき出しにする

ことなのかなあと思いま

す。差別する心を持って

いる自分ではないことを改

めて見つめてみたいもので

自身はこれ現に罪悪生死の凡夫、

曠劫よりこのかた、つねにしづみ、

つねに流転して、出離の縁あること

なき身としれ

（「歎異抄」より）

当時、科学や医療が発達していないころは、原因不明の病気が流行ったりすれば、人の力ではどうすることも出来なかったことから、人を超える神さまに頼らざるを得なかったことでありましょう。そして、罹った人を排除したり、隔離することが身を守ることであったのです。それが「鬼は外」ということに意味が込められていると思います。しかし、「鬼は外」「福は内」というだけでは、差別を助長するだけではないでしょうか。

二月四日は立春を迎えます。前日は節分であり、豆まきが全国で行われます。豆を撒きながら、口々に「鬼は外」「福は内」と言います。どこでもそうかと言うと、地域によっては、「鬼は内」「福も内」だとか、「鬼は内」「福は外」とか「鬼・福の他に悪魔も出てくるところがあります。もともと、節分は立春・立夏・立秋・立冬の前日に行われていたようで、江戸時代に立春の前日だけを節分としての行事が残ったそうです。節分で、豆まきをするのは、無病息災を祈り、厄除けとして行っています。この場合、鬼は伝染病を象徴としています。



# 鬼は内 福は外

浄教寺ホームページ

平成二九年二月の法話より

表題を見て、間違っているのではと思つてい  
る方が大半だと思えます。鬼は外 福は内」  
が一般的ですよ。

節分とは、「豆まき」の時に、鬼に豆を投げ  
つけて退散させる光景がテレビなどによく映し  
出されますね。

節分とは、各季節の始まりの日 立春・立  
夏・立秋・立冬)の前のことで 季節を分け  
る」という意味です。江戸時代以降は特に立春  
毎年二月四日(ころ)の前日を節分というよう  
になりました。この季節の変わり目には邪気  
(鬼)が生じると考えられており、それを追い  
払うための行事が「豆まき」に代表される行事  
です。豆は 穀物には生命力と魔除けの呪力が  
備わっている」という信仰、または語呂合わせ  
で「魔目 豆・まめ」を鬼の目に投げつけて  
鬼を滅する「魔術」に通じ、鬼に豆をぶつける  
ことにより、邪気を追い払い、一年の無病息災  
を願うという意味合いから、一般的に「福は  
内、鬼は外」と声を出しながら福豆 煎り大  
豆)を撒いたり、年齢の数だけ もしくは一つ  
多く)豆を食べて厄除けを行う光景が見られま  
す。

阿弥陀さまから見た、 鬼は内、福は外」

浄土真宗では、右記のような意味での「豆ま

き」はしませんし、「鬼は外、福は内」という  
掛け声ではなく、むしろ阿弥陀さまのみ教えを  
いただくものは、表題の「鬼は内、福は外」と  
いう阿弥陀さまのお慈悲を大事に味わせていた  
だくことができるようになります。どういふこ  
とかと言いますと、鬼とは邪気のことといわれ  
ますが仏教では三毒の煩惱に代表されます。す  
なわち「一欲、二怒り、三愚痴」です。親鸞聖人は  
お手紙(念多念証文)の中で、凡夫という  
は、無明煩惱われらが身にみちみちて、欲も多  
く、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころ  
おおく、ひまなくして、臨終の一念にいたるま  
でとどまらず、きえず、たえぬなり」と語られ  
ています。

他人の幸せを心から喜ぶことができず、相手  
を恨んだり、妬んだり、腹がたったり、卑下し  
てみたり、それが、凡夫である浅ましい私の本  
当の姿であると、親鸞聖人は仰るのです。その  
私の偽らざる姿を鬼と表現したならば、その  
鬼の姿そのものを抱きとって捨てずと仰って  
くださるのが阿弥陀さまです。「鬼は内」とは、  
阿弥陀さまが常に煩惱に染まる凡夫の私を抱き  
取ってくださいている心のあらわれです。  
そして「福は外」とは、その阿弥陀さまの慈  
悲のあたたかいところを凡夫である私に差し向  
けてくださるころがこの「福は外」の意味す  
るところです。

私から見た、 鬼は内、福も内」

お念仏を喜ばれた妙好人の浅原才市さんのエ  
ピソードがあります。それは、才市さんの正像  
が絵師の方が描いて持ってこられた時のこと

です。家族や近所のものは 大変良く描けてい  
る」と満足げによるこんでいるのに、当の才市  
さんは首をかしげているそうです。そこで聞い  
てみると「二つ足らんものがあるの、付け加  
えて描いてもらいたい。」と願われたので、何か  
と問うと「頭に、角を描いてくれんか。あんた  
らには見えんかもしれんが、わしの頭には角が  
生えとるんじや。」といわれたそうです。

阿弥陀さまがご覧になってる姿を、才市さ  
んは角の生えた鬼の姿で表したかったのでし  
ょう。  
才市さんが阿弥陀さまのお慈悲のころをい  
ただいていく中で、お慈悲に照らされる自分の  
姿は何とあさましいことかと、慈悲の光に照ら  
し出されたのでしよう。一皮むけば、本当の姿  
は鬼。そして、手柄は自分のものにしたがる  
私。しかし、その鬼を助けるはたらきが、阿弥  
陀さまのご本願。どうにもこうにもならぬ鬼の  
この私を救わねばと、南無阿弥陀仏となつては  
たらいてくださる。あさましい鬼の私が、阿弥  
陀さまの救いの目当てであったとは何とありが  
たいことであつたか。

阿弥陀さまのおころをいただきながらお念  
仏申し、日々の生活を正直に生きた才市さんの  
姿こそが、「鬼は内、福も内」の阿弥陀さまに  
照らし出された偽りなき私の姿でした。

稲垣瑞剣先生のうたに次のものがあります。  
幸福来たらば敵と思え 苦しみきたらば憎  
眠を覚ます 他力大行の催促なりと思ふべし」  
というものです。

ともに味わいたいお言葉です。





### 付帯事項

このたび、親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要の趣意書を起草するなか、宗門が慶讃法要の在り方及び関連諸行事を考え、企画するうえからの課題として、主要な点を次のとおり掲げました。

### 大きな感動につながる法要を

そもそも慶讃法要は、「法縁」によって同じ道歩む人たちが繋がる喜びを再確認し、実感する場です。今回の慶讃法要は、特に若い人や、これまで仏教や浄土真宗の教えにあまり親しみのなかった方々へ、新鮮なメッセージをおくる絶好の機会にしなければなりません。そこにもまた、今回のような大きな法要を営む意義があります。従って、それに相応しい儀礼性を具えつつ、大きな感動を感じていただけるような法要の在り方を工夫することが大切です。

### 伝わる伝道を

真実信心を正しく、わかりやすく、ありがたく伝えることが伝道の基本であり、儀礼や音楽の有効性を踏まえたいうえで、伝道教団であるからにはやはり「言葉」は大切です。ご法義そのものは時代を超えるものですが、時代の状況や人びとの意識に応じた伝道の方法は工夫される

べきです。近年、指摘されているように「伝える伝道」から「伝わる伝道」へと本質的に転換していく必要があります。今回の慶讃法要を機に、宗門の内外に大切なメッセージを発信する文書でも、教理や教学の専門用語を、誰にでもわかりやすい言葉として紡ぎかえていく大胆な工夫をしていかなければなりません。

### 【私たちのちかい】の普及を

今回の慶讃法要に向けて、将来を担っていく若い世代へのより積極的な伝道を重視していくことが大切です。専如ご門主は二〇一八・平成三〇年の「秋の法要」で、特に若い人や、これまで仏教や浄土真宗の教えにあまり親しみのなかった方々に向けて、「念仏者の生き方」の肝要として「私たちのちかい」を示されました。この「私たちのちかい」は、日々の生活のなかでの私たちの在り方を易しい言葉で四力条にまとめられたものです。ご門主のお心を真摯に受けとめ、特に今回の慶讃法要に向けて、誰にでも理解しやすい言葉で述べられた「私たちのちかい」があらゆる場面で、多くの人びとに唱和していただけるよう、その普及に努めていきます。

### 社会に開かれた宗門

これまでしばしば指摘されながらも、なかなか改善されてこなかった「開かれた宗門」への脱皮という課題があります。そもそも出家主義の仏教とは異なり、この世俗世界で伝道を歩むという念仏者の在り方は、生きとし生けるも

のと共に生きていく」という大乘仏教の理想を実現していく道です。阿弥陀仏の教えに出遇えた私たちは他者の苦しみや悲しみに無関心ではいられません。この他者への思いが基本にあつてこそ、仏法に基づく仏教者の社会参画や社会貢献を実現し、公共性や公益性という社会的な要請にも応えうるのです。今回の慶讃法要をよき機縁として、より多くの人びとと心を開いて共に生かされて生きることの尊さと、喜びを伝えうる開かれた宗門へと脱皮していきましょう。

### 実体的な社会実践として

私たち宗門は長年、社会実践のひとつとして平和問題に取り組んできました。特に、戦後七〇年を機縁に平和に関する学びを深めるなかで、私たち誰もが取り組める平和への具体的な貢献策として、「貧困の克服」に向けた実践運動を展開しています。これは、「自他共に心豊かに生きることでできる社会の実現に貢献する」という宗門の基本理念と軌を一にするものであります。

さらに他の宗派に先駆けて、国際連合が提唱するSDGs（寺則可能な開発目標）にも注目してシンポジウムなどを開催してきました。SDGsの基本理念は「誰一人取り残さない」ということであり、十方衆生を救うという阿弥陀仏の大悲の教え」と親和性があります。これからも仏法に基づき、宗門内外の人びとと連携しつつ、SDGsをはじめとした社会の課題に取り組むことで、開かれた宗門を目指してまいります。

# 宗師は大悲往還の回向を顕示して、ねんごろに他利利他の深義を弘宣したまえり。

教行信証 証卷(『より』)

## 他利利他の深義

ここに「他利利他の深義」とありますが、これは行巻に引かれた「自利利他」の問題のところにでてくる文言と深く関係しています。そこには、

問うて日わく、何の因縁ありてか  
即得成就阿耨多羅三藐三菩提」と言え  
るや。答えて日わく、『論』にその本を求  
むれば、阿弥陀如来を増上縁とするなり  
他利と利他、談ずるに左右あり。もしおの  
ずから仏をして言わば、宜しく利他と言  
べし。おのずから衆生をして言わば、宜  
しく他利と言ふべし。いま將に仏力を談ぜ  
んとす、このゆえに利他をもつてこれを言  
う。(行巻)

とあります。．．これは衆生に本當に利益を  
もたらすのは本願以外にはないということと言  
おうとしているのではないかと思えます。

衆生をして言うならば他利である」とは、  
人間においては「利」とは「自己の利」とか  
「他人の利」という形でしか成り立たない。だ  
から見かけの上では自利と他利が円満になつて  
いるようにみえたとしても、それはたまたま自  
分の利害と他人の利害が一致したということに  
過ぎないのでしよう。そういう均衡状態は、少  
しでも条件が変ればすぐに壊れてしまいます。  
人間同士の関係においては、利とは、どこまで  
いっても自己中心性(エゴイズム)の上に成り  
立っています。だから衆生の利は、「自の利」  
と「他の利」の間の一致か衝突かのどちらかと  
してしか成り立たないということを、衆生をし  
て言わば、宜しく他利と言ふべし」と言ってい  
るのだと思えます。

それに対して、依をして言わば、宜しく利他  
と言ふべし」という場合の、この利他に対する  
自利とは浄土に往生することが定まるといふ利  
益です。その利益は私の中から出てくるもので  
はありません。それをもたらすのは「阿弥陀如  
来の増上縁」、すなわち本願力です。本願以外  
の何ものによつても私は救われたいということ  
がはっきりすることがこの場合の自利の意味で  
す。  
それが何を意味するかと言いますと、この私  
が本願によつて救われるという事実が、念仏  
の衆生を撰取して捨てず」といふ本願の成就を  
証明することになるのです。そこには私のエゴ  
が入り込む余地がありません。弥陀の本願はう  
そいつわりではないということ、私の上に成  
り立った自利が証明するのです。その場合、利  
他とは、私を救う本願は間違はなくあなたをも  
救うということとして成り立ちます。本願がう

そでないならば、その本願は私と同じように必  
ずあなたをも救う。それが利他ということだ  
す。自利の確信とは本願に対する信頼として成  
立しますから、それはそのまま利他の成就への  
確信に直結するのです。本願が根拠となってい  
るのですから、自利と利他が衝突することはあ  
りません。  
浄土に往生することにおいては、凡夫の側の  
条件は何の根拠にもなっていないから、誰  
でも」ということが成り立つのです。私の中に  
は本願に付け足すべき材料は何もない。私を救  
うのは本願以外の何ものでもない。だから私を  
救う本願は、間違はなくあなたを救い、一切衆  
生を救う。これが「阿弥陀如来を増上縁とす  
る」ということです。

藤場俊基氏著 親鸞の教行信証を読み解くⅢ  
「証・眞仏土巻」より抜粋 4

※「行巻」に説かれる「自利」の意味は藤場氏  
がおっしゃるように、浄土に往生することが  
定まる利益であり、それをもたらすのは、阿弥  
陀さまの本願力しかなく、それでしか救われな  
い私であると「罪悪深重の凡夫」の自覚を言わ  
れている。「往相回向」を意味していると思いま  
す。しかし、「利他」は「還相回向」のことと  
思うのですが、藤場氏は、現生において、信心  
を獲得した者が、その者と同じように他の者が  
本願力により救われていくことを「利他」と  
おっしゃっておられるところには、納得いかな  
いでおります。私は現生において、私を仏にし  
ようと往相回向(自利)・還相回向(利他)が  
私の上にはたらいっていることだと思えます。

稱讚寺

一〇二〇 令和二年度の予定

|       |       |         |              |
|-------|-------|---------|--------------|
| 四月    | 六月 月  | のんのん法話会 | 花まつり         |
| 二日 日  | 二日 日  | のんのん法話会 | 築地本願寺花まつり    |
| 六日 木  | 六日 木  | のんのん法話会 | 立教開宗記念       |
| 二六日 日 | 二六日 日 | のんのん法話会 |              |
| 五月    | 六日 水  | のんのん法話会 |              |
| 六日 土  | 六日 土  | のんのん法話会 | 親鸞聖人降誕会      |
| 二二日 木 | 二二日 木 | のんのん法話会 | 築地本願寺降誕会法要   |
| 二六日 日 | 二六日 日 | のんのん法話会 |              |
| 六月    | 六日 土  | のんのん法話会 |              |
| 六日 日  | 六日 日  | のんのん法話会 |              |
| 二二日 日 | 二二日 日 | のんのん法話会 | 永代経法要        |
| 二六日 金 | 二六日 金 | のんのん法話会 |              |
| 七月    | 六日 月  | のんのん法話会 |              |
| 六日 木  | 六日 木  | のんのん法話会 |              |
| 二六日 日 | 二六日 日 | のんのん法話会 | 歓喜会          |
| 八月    | 六日 木  | のんのん法話会 |              |
| 六日 日  | 六日 日  | のんのん法話会 | 宇皿蘭盆会        |
| 二六日 水 | 二六日 水 | のんのん法話会 |              |
| 九月    | 六日 日  | のんのん法話会 |              |
| 六日 水  | 六日 水  | のんのん法話会 |              |
| 二七日 木 | 二七日 木 | のんのん法話会 | 平和フォーラム      |
| 二八日 金 | 二八日 金 | のんのん法話会 | 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 |
| 二〇日 日 | 二〇日 日 | のんのん法話会 | 秋季彼岸会法要      |
| 二六日 土 | 二六日 土 | のんのん法話会 |              |
| 十月    | 六日 火  | のんのん法話会 |              |
| 六日 金  | 六日 金  | のんのん法話会 | 鹿児島・稱讚寺永代経法要 |
| 二四日 土 | 二四日 土 | のんのん法話会 | 鹿児島・稱讚寺永代経法要 |
| 二五日 日 | 二五日 日 | のんのん法話会 |              |
| 二六日 月 | 二六日 月 | のんのん法話会 |              |
| 十月    | 六日 金  | のんのん法話会 |              |
| 六日 土  | 六日 土  | のんのん法話会 | 築地本願寺報恩講大逮夜  |
| 二五日 日 | 二五日 日 | のんのん法話会 |              |
| 二六日 月 | 二六日 月 | のんのん法話会 |              |
| 十一月   | 六日 日  | のんのん法話会 |              |
| 十二月   | 六日 日  | のんのん法話会 |              |
| 一月    | 六日 土  | のんのん法話会 | 如月忌          |
| 六日 日  | 六日 日  | のんのん法話会 |              |
| 二六日 金 | 二六日 金 | のんのん法話会 |              |
| 二月    | 六日 水  | のんのん法話会 |              |
| 二六日 火 | 二六日 火 | のんのん法話会 | 御正忌          |
| 三月    | 六日 土  | のんのん法話会 |              |
| 六日 日  | 六日 日  | のんのん法話会 | 円光大師会        |
| 二六日 金 | 二六日 金 | のんのん法話会 |              |
| 二二日 日 | 二二日 日 | のんのん法話会 | 春季彼岸会法要      |
| 二六日 木 | 二六日 木 | のんのん法話会 |              |

※毎月六・一六・二六日の「のんのん法話会」は午後二時から午後四時まで開催いたします。

築地本願寺・東京教区・東組  
二〇一九年度内 行事予定

東組実践運動推進協議会

日時 三月二日(木) 一四時～一六時半

会場 浄泉寺 葛飾区白鳥 一〇一六

電話 〇三三六九一〇三二八

講師 大坂 智美氏

NPO法人パルシック・みんなかふえ担当

内容

地域で見守りができる関係性の再構築を目指して葛飾区の他団体とも連携しながら活動する「みんなかふえ」。子ども食堂や宿題を見る学習支援等を通じ人と人が安心して繋がる事のできる場所づくりを行っています。  
今回はその担当者を講師に招来し、これまでの活動や現場での出来事から見えた利用者を取り巻く現状や背景、抱えている課題などについて聞かせて戴きます。講義を承け、持続可能な実践について協議します。

日程 一四〇〇 受付  
一四三〇 開会式  
一四四五 講義  
一五〇〇 協議会  
一五二〇 閉会式  
一五三〇 解散

如月忌 九條武子様を偲んで

日時 二月七日(金) 三時～一六時半

会場 和田堀廟所 本堂

講師 武子様ご往生の新聞記事を縁として

講師 浅田 恵真師

本願寺派勸学・大阪府因念寺

日程

三〇〇〇 法要  
三〇四〇 布教  
三〇五〇 仏教讃歌 築地本願寺合唱団楽友会  
三〇三〇 九條武子様墓前参拝(焼香)  
三〇〇〇 ぜんざい接待(蓮華の間)  
\*和田堀廟所  
住所 杉並区永福 一八一  
電話 〇三三三三三三三三三三

東京教区仏教婦人会連盟

一日研修会

日時 三月三日(火)

会場 築地本願寺 本堂

研修会 幸重 忠孝師

子どもソーシャルワークセンター代表

講義 子どもの貧困

法話 細川 真彦師 多摩組覺證寺住職

日程

一〇〇〇 受付  
一〇〇〇 開会式  
一一〇〇 研修会  
一二〇〇 昼食・休憩(ダーナ募金)

三〇〇〇 研修会  
四〇〇〇 休憩  
四〇二五 法話  
五〇〇五 閉会式  
参加費 三千元  
持ち物 念珠・式章・聖典・筆記用具・常備薬  
※申込締切 二月二日(金)

東組臨時組会

日時 三月二八日(土)

会場 築地本願寺

対象 東組僧侶議員・門徒議員

内容 〇組長選挙

〇教区会議員選出

僧侶議員(一名)

門徒議員(一名)

持ち物 門徒式章・念珠・聖典・印鑑

※現在、東組の稱讃寺としての門徒議員おんは、川田原末廣氏でございます。  
川田原末廣氏には万障お繰り合わせのうえ、ご出席賜りますようお願い申し上げます。  
尚、川田原氏がやむなくご欠席の場合は門徒総代さんの中で都合がつく方に出席をお願いすることがございますので、お心づもり戴きますようお願い申し上げます。

# 稱讚寺 行事予定

## 二〇二〇年 二月の行事予定



ただ ほごこ  
正しい施しは  
むく ねが  
報いを願わない

二〇二〇年 心のももしび「二月カレンダーより

## 二〇二〇年 三月の行事予定

- 一日 日曜礼拝 午前九時
- 六日 日曜礼拝 午前九時
- 八日 日曜礼拝 午前九時
- 五日 日用礼拝 午前九時
- 六日 日曜礼拝 午後二時
- 三日 日曜礼拝 午前九時
- 二日 春季彼岸会法要 午後二時
- 二六日 日曜礼拝 午後二時
- 二九日 日曜礼拝 午前九時

## 二〇二〇年 四月の行事予定

- 五日 日曜礼拝 午前九時
- 六日 日曜礼拝 午後二時
- 二日 日曜礼拝 午前九時
- 六日 日曜礼拝 午後二時
- 九日 日曜礼拝 午前九時
- 二六日 日曜礼拝 午後二時

## 二〇二〇年 二月 法務・布教・出向予定

- 一日 鍛冶沢家七回忌 十一時
- 丸山家七回忌 十六時
- 二日 東京教区仏教壮年会連盟 結成四〇周年記念大会
- 三日 坂根家月忌参り 九時半
- 六日 東京教区僧侶研修会
- 八日 鬼丸(安原)家一周忌 がん患者・家族語らいの会
- 九日 桐生家法要 十時
- 二之宮家四十九日法要
- 二日 齋藤家一周忌 十時
- 二日 東組・組内会 十七時
- 七日 ビハーク電話相談 十四時
- 二三日 東組役員会 十八時
- 二五日 ビハーク電話相談 十四時